

別子往還道を訪ねて

第七回 端出場①



鉱山鉄道「別子1号」
※マイントピア別子の観光用

昭和5年から別子銅山の最後の採鉱本
部が置かれていた端出場一帯は観光施設
マイントピア別子となっています。かつて
この一帯には、女性従業員による手選鉱
場、下部鉄道の終着駅、端出場駅があり、
また、配給所、劇場、診療所、郵便局な
どもあり、仕事に携わる人たちがここだ
けで生活上のものがおおむね賄える場所
でした。入口の端出場大橋（斜張橋）を
渡る前に、県道側から橋脚が見えます。
これはかつて、採鉱本部への出入りに使わ
れていた芦谷橋の一部です。斜張橋を渡っ
た正面付近には赤茶色の坑内鉄道車両の
姿があり、駐車場北側の山際にはコンク
リート製の巨大な貯鉱庫跡が姿を見せて
います。敷地の周囲は国領川の上流河川、
足谷川の溪谷となっています。そこからそ
そり立っている壮大な石垣は、訪れた学
術関係者の度肝を抜いたこともありまし
た。マイントピア別子では鉱山観光を楽
しめます。まずは鉱山鉄道。2階の端出
場駅で実物の83%で縮尺復元された鉱山
鉄道「別子1号」に乗り込むと声優水樹

奈々さんのアナウンスで観光案内が始ま
ります。駅を出発し、両脇に石垣が見え
てくると、レンガ造の端出場隧道（中尾
トンネル）に入り、続けて、ドイツ ハー
コート社製の赤い端出場鉄橋（足谷川鉄
橋）を通過します。いずれも別子鉱山鉄
道（下部鉄道）の近代化遺産であり、平
成21年に国の登録有形文化財となりました。
端出場鉄橋は川に対して60度斜めに
架橋されているピントラス橋という特徴が
あります。間もなく、終点の打除駅に到
着。駅付近では坑内で使われていた機械
類やカゴ電車が保存されています。次は
観光坑道です。延長333メートルの観光坑
道は旧火薬庫を利用して作られ、坑内
では、江戸時代元禄期に始まった別子銅山
の様子をジオラマ、映像などで見ることが
でき、また、湧水のくみ上げや削岩機な
どを体験することができます。観光坑道
を出て、赤い猿飛橋を渡った山際には東
平の第三通洞からつながっていたレンガの
坑水路跡が姿を見せています。



市政だよりにはま（通巻七八五号）平成二十三年十一月一日発行 毎月一回一日発行

広告欄

広告欄